

No.	感染症(PT)	出典	概要
1	A型肝炎	Eurosurveillance 2009; 14: 19091	チェコ共和国PHPAによると、2008年にA型肝炎確定症例が1616例報告されたが、これは2003～2007年までの年間平均報告数153例(70～322例)と比べて10.6倍であった。この感染拡大は、初期には薬物静注濫用者と関係しており、約1/4の症例はヒト-ヒト感染によるものと考えられたが、年の後半では恐らく長期間に亘るA型肝炎罹患率の低下で感受性の増大した一般住民において拡大したと考えられた。
2	A型肝炎	Vox Sanguinis 2009; 96: 14-19	加熱及び高静水圧の物理的不活化処理法で4株のA型肝炎ウイルスの不活化を行ったところ、それぞれの処理はHAV感染性を3～5log10の範囲で低下させた。また、血液製剤のウイルス汚染に対する安全性を評価するのにもっとも適した株は、耐熱性のKRM238であった。
3	B型肝炎	Transfusion Med. 2008; 18: 379-381	日本における、不顕性HBV感染者(HBsAg陰性)からの輸血によるB型肝炎感染に関する報告。
4	B型肝炎	日本肝臓学会第37回東部会 O-85	日本の首都圏において、HBVの中でも慢性化率の高いgenotypeAは急速に増加しており、新規日本人キャリアからの二次感染が疑われることが急性B型肝炎症例の検討から明らかになった。
5	B型肝炎	日本小児感染症学会第40回総会・学術集会 E-20	母親がHBsAg陰性かつ家族内に患者以外のHBVキャリアが存在する成人及び小児HBVキャリアである7家族を対象とし、HBV全遺伝子解析に基づく分子系統樹を用いて感染源を検索したところ、3家族で父親以外の感染源の可能性があり、祖母からの感染は分子疫学的に感染経路を証明できた。
6	B型肝炎C型肝炎	ProMED-mail20081201.3773	パキスタンSindh地方、BadinにおいてB型及びC型肝炎が増加している。Badin及びその周辺の村では45%が罹患している。理由は、基本的な医療設備の不足、シリンジ使い回し、肝炎ウイルス検査無しの輸血と述べられている。
7	B型肝炎C型肝炎	日本輸血細胞治療学会誌 2009; 55: Y-1-2	2004～2007年の4年間に確認された輸血ウイルス感染症は、HBV50例、HCV3例、HEV4例、ヒトパルボウイルスB19が4例である。輸血細菌感染症はRC-MAPによるY. enterocolitica感染2例、PCIによるS. aureus感染1例であった。
8	C型肝炎	第32回 日本血液事業学会総会	1999年7月～2008年3月までにNATで検出された111本のHCV-RNA陽性検体のGenotype解析の結果、Genotype 2aが最も多く、1bと2bがほぼ同数であった。
9	C型肝炎	日本輸血細胞治療学会誌 2009; 55: O-054	本邦で20プールNAT導入後、NAT陰性献血血液由来の血液製剤からHCV感染が初めて報告された。
10	E型肝炎	AABB Annual Meeting and TXPO 2008	2005～2007年に北海道で実施したプールNATによるHEV-RNAスクリーニングの結果、献血者の約1/8,300はHEV-RNA陽性であった。ほとんどの献血者は動物内臓を摂取しており、無症候性であったが、ウイルス血症は数ヶ月間持続した。
11	E型肝炎	Clin Infect Dis 2009; 48: 373-374	急性白血病の33歳の男性がE型肝炎を発症し、HEV遺伝子検査の結果、重複する時期に同じ病棟に入院していた別のE型肝炎患者から感染していたことが示唆された。
12	E型肝炎	Transfusion 2008; 48: 2568-2576	日本全国でALT高値のため献血不適となった献血者の血液検体に、HEVマーカー(HEV-RNA及び抗HEV抗体)が認められ、いずれのマーカーとも東日本の方が西より高かった。
13	E型肝炎	日本ウイルス学会第56回学術集会 2P021	HEV Genotype3型の感染が確認されている豚舎周辺のドブネズミの感染保有状況の調査。9/56匹のドブネズミからHEV-RNA(Genotype3)が検出され、11/56匹からHEV抗体が確認された。
14	E型肝炎	日本ウイルス学会第56回学術集会 2P022	タイの養豚場における齧歯類のE型肝炎ウイルスの検出。養豚場に生息するラットから、ブタから分離されたHEV-RNAと一致するHEV-RNAが分離された。ラットがE型肝炎ウイルスを蓄積する宿主となっている可能性がある。
15	HHV-8感染	Transfusion 2008; 48: Supplement 105A	米国の供血者のヘルペスウイルス8(HHV8)ゲノム陽性率について、高感度定量RT-PCR法(検出限界8コピー)より684名の検体を分析したがHHV8ゲノムは検出されず、健康な供血者におけるHHV8陽性率は非常に低かった。
16	HIV	Eurosurveillance 2008; 13(50): 19066	ヨーロッパにおいて報告された人口100万人当たりの新規HIV感染率は、2000年以降ほぼ2倍となった。2007年は、当該地域53カ国中49カ国から合計48,892例のHIV感染が報告され、エストニア、ウクライナ、ポルトガルとモルドバ共和国で感染率が最も高かった。
17	HIV	Lancet 2008; 372: 1791-1793	2007年、中国におけるHIV感染者70万人、AIDS発症者8万5千人と推定。

No.	感染症(PT)	出典	概要
18	HIV	Nature 2008; 455: 609-611	2007年10月、中国におけるHIV感染者は70万人を記録。以前は感染有病率は0.04~0.07%と低推移を示していたが、2006年以降は8%と増加し、雲南、新疆は4~6万人、広西、広東は3~4万人を記録している。
19	HIV	Retrovirology 2008; 5: 103	シエラレオネ共和国から米国への移民男性においてHIV-2の新たなグループ(HIV-2-NWK-08F)が分離された。シエラレオネのサル的一种で確認されているサル免疫不全ウイルスと系統学的に類似している。感染者はサル接触歴、刺青、針刺し、輸血歴もなくヒト-ヒト感染が疑われている。
20	インフルエンザ	CCDR Fluwatch 2008-2009 week09	カナダにおける季節性インフルエンザ流行状況報告。米国で、ブタインフルエンザA(H1N1)のヒトへの感染例が1例報告されたことも述べられている。
21	インフルエンザ	CDC Weekly Report/flu summary update 2009 Mar 6	米国アイオワ州で、2009年2月22~28日に、ブタインフルエンザA(H1N1)のヒトへの感染例が1例報告された。
22	インフルエンザ	CDC Weekly Report/flu summary update week08	2009年2月22日から28日の8週間において、米国での季節性インフルエンザ発生は概ね前の週と同じ水準であった。インフルエンザA(H1, H3, unsubtype)およびBについて、米国地域ごと、週ごとに比較検討した報告。
23	インフルエンザ	CDC/MMWR 2009; 58: 115-119	米国におけるインフルエンザの活動性に関する報告。2008年12月にサウスダコタにおいてブタインフルエンザA(H1N1)に感染した症例1例(19歳)に関する報告。
24	インフルエンザ	CDC/MMWR 2009; 58: 1-3	2009/4/17米CDCはカリフォルニア南部の小児2例の熱性呼吸器疾患をブタインフルエンザA(H1N1)感染であると特定した。アマンダジン、リマンダジンに抵抗性があり、2症例から検出されたウイルスは、米国やそれ以外の国でも報告されたことがないブタ又はヒトインフルエンザウイルスの遺伝子片を併せ持っていた。いずれの小児もブタとの接触はなく、感染源は不明である。
25	インフルエンザ	CDC/MMWR 2009; 58: 369-374	新規のインフルエンザAウイルスに関して、2009年2月28日にアイオワ州からブタインフルエンザA(H1N1)の3歳男児への感染例が報告された。ブタへの密接な接触が確認されている。男児は回復している。米国における今シーズン3例目のブタインフルエンザ感染例である。
26	インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2008; 14: 1470-1472	米国で2005年12月にインフルエンザA型と診断された17歳少年の鼻洗浄検体から分離されたウイルスは、CDCで決定されたウイルスの全ゲノム配列から、ブタインフルエンザA(H1N1)トリプル再集合体ウイルス(A/Wisconsin/87/2005H1N1)と同定された。患者は発症の3日前にブタの屠殺を手伝っており、ブタの呼吸器分泌物が感染源として最も疑われた。
27	インフルエンザ	Eurosurveillance 2009; 14: 1-2	2008年11月8日、スペイン北東部、家内養豚場勤務の50歳女性がインフルエンザ様症状を発症し、ブタインフルエンザAH1N1が検出された。近縁者、同僚等での症状は認められていない。
28	インフルエンザ	ProMED-mail20090220.0715	スペインにおいて2008年11月、養豚場で働く50歳女性がインフルエンザ様症状を呈した。2009年1月13日国立インフルエンザ研究所より、ブタ由来のインフルエンザA(H1N1)の可能性があると報告された。
29	インフルエンザ	N Engl J Med 2009; 360: 2616-25	米国での2005年から2009年における調査の報告。3種(トリ、ヒトおよびブタ)が再集合したブタインフルエンザA(H1)ウイルスのヒトへの感染についての11症例の報告。
30	インフルエンザ	ProMED-mail20081125.3715	CDCはインフルエンザ活動性の最新情報で、ブタに数回接触後にブタインフルエンザA/H1N1ウイルスに感染したヒトについて報告した。CDCによると毎年約1例のブタインフルエンザ陽性ヒト症例がある。この患者は10月中旬に病気になる前、テキサス州保健サービスは報告しているが、詳細は不明である。患者の家族や接触者では発症しなかった。
31	インフルエンザ	Virus Res. 2009; 140: 85-90	中国のブタからヒト様H1N1インフルエンザウイルスが検出され、ブタがヒトにおけるパンデミックを引き起こす古典的なインフルエンザウイルス保有宿主である証拠が示された。
32	インフルエンザ	日本ウイルス学会第56回学術集会 2E05	タイで分離された豚インフルエンザウイルス12株の遺伝子について系統解析を行い、9つの遺伝型に区別された。
33	新型インフルエンザ	CBER 2009年4月30日	新型インフルエンザ(H1N1)の輸血を介した感染可能性について。輸血により季節性インフルエンザに感染した例はこれまで報告されたことが無く、新型インフルエンザについても報告されていない。現時点で、輸血のメリットは新型インフルエンザの理論的リスクをはるかに上回る。なお、血漿分画製剤については製造工程におけるクリアランスが十分であることが確認されている。

No.	感染症(PT)	出典	概要
34	新型インフルエンザ	CDC/NMWR 58(17):470-472 2009年5月8日	2009年4月24日、CDCはテキサス州とカリフォルニア州にて、ブタインフルエンザA(H1N1)ウイルス感染確定症例8例を報告した。米国患者から同定されたウイルスはメキシコ患者のものと遺伝的に類似していると確認された。4月24日移行、米国およびその他の国々においてブタインフルエンザA(H1N1)ウイルス感染症例は増加し続け、4月28日時点の米国症例の約半数(45例)はニューヨーク市の高校生と職員であった。
35	新型インフルエンザ	CDC 2009/06/26 Novel H1N1 Flu Situation Update	2009年6月25日までに米国で確認された新型インフルエンザA/H1N1感染確定例及び可能性例は27,717例であり、死亡例は127例である。
36	新型インフルエンザ	CDC/MMWR 2009; 58: 1-3 (dispatch)	ブタインフルエンザA(H1N1)ウイルスに感染した追加の6症例について。カリフォルニアのサンディエゴで3例、インペリアルで1例、テキサスのグアダルペで2例報告された。これらの患者から分離されたウイルスはメキシコの患者から分離されたウイルスと同じであった。
37	新型インフルエンザ	CDC/MMWR 58 (dispatch) 2009/4/30	2009年3月から4月上旬にかけてメキシコで呼吸器疾患のアウトブレイクが発生した。3月1日から4月30日までに合計1918例の重症呼吸器疾患症例が報告され、うち286例がインフルエンザA陽性、97例がRT-PCRにより新型インフルエンザA/H1N1と確定された。死亡例は合計84例が報告された。このインフルエンザウイルスはカリフォルニアの小児患者2例から同定されたウイルスと同一の株であることが判明した。
38	新型インフルエンザ	CIDRAP News 2009/04/24	2009年4月24日、CDCはメキシコでの致死的な呼吸器疾患発症例から分離されたウイルスは米国の患者のブタインフルエンザA/H1N1株と一致したと発表した。米国での感染例は現在8例である。メキシコ政府の公式発表では、メキシコシティにおいて854例以上の肺炎患者が発生し、そのうち59例が死亡している。
39	新型インフルエンザ	Health Canada news release 2009/04/26	カナダ政府はカナダにおけるブタインフルエンザA(H1N1)のヒト感染を確認した。Nova Scotiaで4例、British Columbiaで2例であり、米国及びメキシコのブタインフルエンザA(H1N1)と同一株であった。
40	新型インフルエンザ	IBTimes 2009/05/09	新型インフルエンザA/H1N1感染例が国内で初めて確認された。米デトロイト発成田行きの飛行機に搭乗しており、帰国時に発熱等を呈していたため簡易検査を行い、A型インフルエンザ陽性反応が出たためRT-PCR検査を実施し、新型インフルエンザA/H1N1陽性が確認された。
41	新型インフルエンザ	IDWR 2009 第16 週	2009年4月29日現在、9カ国が合計148例のブタインフルエンザA/H1N1感染を公式に報告している。米国では91例の確定症例を報告しており、1名の死亡者がいる。メキシコは7例の死亡例を含む26例の確定症例を報告している。他、オーストリア(1例)、カナダ(13例)、ドイツ(3例)、イスラエル(2例)、ニュージーランド(3例)、スペイン(4例)、英国(5例)である。
42	新型インフルエンザ	MHLW(平成21年4 月28日健感発 0428003号)	メキシコや米国で発生している豚インフルエンザ(H1N1)を、感染症法に規定する「新型インフルエンザ」と位置づける。
43	新型インフルエンザ	MMRW 2009; 58: 521-524	05~06年、06~07年、07~08年の季節性インフルエンザワクチン接種コホートの保存ペア血清を用いて、新型インフルエンザウイルスの交差反応性を検討した。18-64歳ではワクチン接種前に6~9%、60歳以上では33%が交差反応を示した。ワクチン接種後には交差反応を示した例が18-64歳で2倍程度に増え、60歳以上では全く増えなかった。
44	新型インフルエンザ	N Engl J Med 2009; 360: 2605- 15	4月15日から5月5日の間、米国の41州において、総計642症例からヒトにおける新規ブタインフルエンザA(H1N1)ウイルスの感染を確認した。
45	新型インフルエンザ	ProMED- mail20090723.260 3	カナダCFIAの検査員2名が、2009年4月下旬にAlbertaのブタにおけるインフルエンザアウトブレイクについて調査中にブタインフルエンザA/H1N1に感染したことが発覚した。カナダにおける最初の新型インフルエンザ感染例である。
46	新型インフルエンザ	Sience 2009; 10.1126/SCIENCE .1176062	新型インフルエンザA(H1N1)ウイルスは世界中に急速に広まっている。パンデミックの可能性を判断するのはデータが限られているため難しいが、適切な保険対応を伝えるには必須である。メキシコでの大流行、国際的な広がりの早期情報およびウイルス遺伝的変異について分析することにより、感染力と重症度の早期評価を実施した。
47	新型インフルエンザ	WHO 2009年4月 28日	WHOは新型インフルエンザのPandemic Alertをフェーズ4に引き上げた。
48	新型インフルエンザ	WHO 2009年4月 29日	WHOは新型インフルエンザのPandemic Alertをフェーズ5に引き上げた。

No.	感染症(PT)	出典	概要
49	新型インフルエンザ	WHO 2009年6月11日	2009年6月11日、WHOは現在の新型インフルエンザのAlertをフェーズ6に引き上げた。
50	新型インフルエンザ	WHO Disease Outbreak News 2009年6月24日	2009年4月24日以降、米国及び他の国々における新型インフルエンザA/H1N1感染症例は増加し続け、6月24日現在WHOに報告された確定症例数は累計55867例(死亡238例)である。米国は21449例(死亡87例)、メキシコは7847例(死亡115例)、ブラジルは334例(死亡0例)。
51	新型インフルエンザ	WHO/EPR 2009年4月24日, 2009年4月27日 WHO/Media centre 2009年4月27日	<ul style="list-style-type: none"> ・米国、メキシコにおけるインフルエンザ様疾患について: 米国政府は米国内の7人の豚インフルエンザA/H1N1確定症例(5人がカルフォルニア、2人がテキサス)と9人の疑いがある症例を報告した。死亡症例は報告されていない。メキシコ政府は3つの別々の事例を報告しており、メキシコ連邦区ではインフルエンザ様疾患が挙がり始め、4月23日までに854人以上の肺炎が発生し、うち、59人は死亡している。 ・豚インフルエンザupdate3: 豚インフルエンザA(H1N1)の発生状況は刻々と変化しており、2009年4月27日現在、米国では40症例(死亡例なし)、メキシコでは7症例の死亡を含む26症例で同ウイルスへの感染が確認された。 ・豚インフルエンザ: 国際保健規則(2005年)の元設立された緊急委員会が2009年4月27日、2回目となる会合を開催した。
52	新型インフルエンザ	WHO/EPR update6 2009年4月30日	2009年4月30日現在、11の国がインフルエンザA(H1N1)に感染した257の症例を公式に報告した。
53	新型インフルエンザ	WHO/EPR 2009年5月21日	2009年5月21日現在の世界における新型インフルエンザ(H1N1)感染状況。41カ国、11034例(死亡85例)が確定されている。
54	新型インフルエンザ	WHO/WER 2009; 84: 173-184	新型インフルエンザ(H1N1)が発生し、警戒レベルは2009年4月29日にフェーズ5まで引き上げられた。5月12日時点では、30カ国、5251例の感染例がWHOに報告されている。
55	新型インフルエンザ	厚生労働省健康局結核感染症課事務連絡2009年4月26日	メキシコ及び米国におけるブタインフルエンザ事例に対する対応について
56	新型インフルエンザ	厚生労働省 新型インフルエンザに関する報道発表資料 2009年5月16日	兵庫県神戸市における新型インフルエンザ(インフルエンザA/H1N1)が疑われる患者発生についての報告。国内最初の新型インフルエンザ患者が確認された。患者は10代後半の男性。本人に渡航歴はない。国立感染症研究所からの検査の結果、A型(+)、ヒトH1(-)、ヒトH3(-)、新型H1(+であったため、新型インフルエンザ(インフルエンザA/H1N1)が否定せず、新型インフルエンザが疑われる患者として神戸市に届出があった。患者は感染症法に基づき、神戸市内の感染症指定医療機関に入院した。
57	鳥インフルエンザ	Arch Virol 2009; 154: 677-681	ブタから分離されたH5N1インフルエンザウイルスの病原性を検討した。ブタ由来H5N1ウイルスは鶏卵胚およびMDCK細胞でよく増殖することが確認された。また、マウスに対する病原性では、ニワトリ由来のH5N1ウイルスに比べて病原性が低い或いは弱毒であることが示された。
58	鳥インフルエンザ	Avian Diseases, Vol.52, No.1, p40-44, 2008	ニワトリに実験的にH5N1インフルエンザを感染させ、気管と種々の組織におけるウイルスの局在について解析した。と畜前の気管スワップの抗原検出試験は発症または死亡した感染ニワトリを同定するには役立ったが、発症前の検出感度は低かった。
59	鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2009; 15: 272-279	2007年のドイツで発生したH5N1ウイルスの家畜農場でのアウトブレイクの起原と、食物連鎖へH5N1ウイルスが侵入した疑いを調査するために、系統学的分析と疫学的分析を実施した。その結果、市販の冷凍貯蔵されたアヒルの肉が原因である可能性が示唆された。アヒルが高病原性H5N1ウイルスに感染しても臨床的に無症候であることが示された。
60	鳥インフルエンザ	Emerging Infectious Diseases Vol.14, No.8, 1303-1305, 2008	2006年2月から8月にHN51型インフルエンザウイルスのアウトブレイクが起こったカンボジアの3つの村で土壌表面のスワップ、貯水池の水中植物、死亡した家禽等の環境調査を実施した。14世帯領域から採集した77サンプル中27サンプル(35%)がrRT-PCRによりH5N1陽性であることが確認され、家禽飼育場所の定期的な消毒の必要性が示唆された。
61	鳥インフルエンザ	J Virol Methods Vol.149, No.1, 180-183 2008	自然水レザバー中の超低濃度インフルエンザウイルスを検出する簡便法を開発した。ニワトリの全血から分離した赤血球細胞を用い、細胞表面のシアリルリセプターに対するウイルス結合と凝集による濃縮を行い、鶏卵胚で培養後ウイルスを検出した。検出感度と確率をPCR法と比較した。
62	鳥インフルエンザ	OIE/World animal health information Vol.22 No.10 2009/03/05	2009年2月27日、愛知県豊橋市のうずら農場においてトリインフルエンザウイルス(H7N6)が検出された。感染農場、周辺地域では家畜の移動制限、殺処分が実施され感染拡大防止措置が取られている。ヒトへの感染は認められていない。感染源は不明。

No.	感染症(PT)	出典	概要
63	鳥インフルエンザ	ProMED-mail20090121.0263	中国における鳥インフルエンザ感染情報。2009年1月の感染例は、Hunan省の16歳男性(1月20日死亡)、Shandong省の27歳女性(1月17日死亡)、Beijing省の19歳女性(1月5日死亡)。
64	鳥インフルエンザ	ProMED-mail20090228.0826	2009年2月、愛知県豊橋市において、1925年以来検出されていないH7トリインフルエンザウイルスのウズラへの感染が確認された。その後の調査で、このウイルスは国内では初のH7N6亜型であることが判明した。感染農場、周辺地域では家畜の移動制限、殺処分が実施され感染拡大防止措置が取られている。ヒトへの感染は認められていない。感染源は不明。
65	鳥インフルエンザ	WHO/EPR 2009年1月7日	中国衛生部は、中国において新たに鳥インフルエンザ感染例1例(2008年12月24日発症、2009年1月5日死亡)を報告した。
66	鳥インフルエンザ	WHO 2009年1月19日	中国保健省はH5N1鳥インフルエンザのヒト感染例を3例報告した。1例目は山東省27歳女性で1月5日に発症し、17日に死亡。2例目は山西の2歳女児で1月7日発症し重篤である。3例目は湖南省16歳男性で1月8日に発症し重篤である。
67	鳥インフルエンザ	WHO/EPR 2009年1月22日	WHOに報告された鳥インフルエンザ(H5N1)ヒト確定症例数。2003~2009年の症例数及び死亡数。2008年はバングラデッシュで症例1例、カンボジアで症例1例、中国で症例4例(死亡4例)、エジプトで症例8例(死亡4例)、インドネシアで症例24例(死亡20例)、ベトナムで症例6例(死亡5例)。
68	鳥インフルエンザ	厚生労働省HP 2009年2月27日	2009年2月27日、愛知県豊橋市のうずら農場においてトリインフルエンザウイルス(H7N6)が検出された。
69	鳥インフルエンザ	日本ウイルス学会第56回学術集会 3F03	インドネシアにおいて鳥インフルエンザH5N1の豚への感染状況が調査され、系統解析の結果、遺伝的に異なる3種類のH5N1ウイルスが感染しており、ヒト型レセプターを認識する変異を有するものも確認された。
70	ウエストナイルウイルス	CDC(http://www.cdc.gov/ncidod/dvbid/westnile/surv&controlCaseCount08_detailed.htm)	2008年、米国におけるウエストナイルウイルス感染症例は46州から1356例が報告され、うち687例では脳炎や髄膜炎を発症、死亡に至ったのは44例だった。
71	ウエストナイルウイルス	Emerg Infect Dis 2008; 14: 1747-1749	米国カリフォルニア州カーン郡ベーカーズフィールドにおける2007年夏のWNV確定症例は140例で、2004-2006年に比べて205-280%の増加が認められた。この増加には、住宅ローン滞納により放置された住宅のプールの水が関係している。
72	レトロウイルス	日本ウイルス学会第56回学術集会 2P111	日本でのXMRV感染のスクリーニングを行い、前立腺がん患者では2/30例、献血者では5/120名が抗体陽性であった。さらに抗体陽性前立腺がん患者血清1検体よりウイルス核酸を検出した。日本国内の前立腺がん患者集団中にXMRV感染の存在が示唆された。
73	ウイルス性脳炎	CDC/MMWR 2009; 58: 4-7	米国ウエストバージニアで妊婦における初めてのラクロス脳炎ウイルス(LACV)感染が見つかり、その後、分娩時の臍帯血からLACV抗体が検出され垂直感染が疑われたが、出生後6ヶ月までLACV感染兆候は見られていない。親が子の血清検体採取を拒否しており感染は確定できていない。
74	ウイルス性脳炎	ProMED-mail20090515.1821	ヒトにおける初のシカダニウイルス感染例の報告(出典NEJM)。ニューヨークの62歳男性がシカダニウイルスに感染したシカダニの咬傷を受けた後、髄膜脳炎で死亡した。
75	日本脳炎	ProMED-mail20081115.3609	インド当局はBRD Med. Coll. Hosp及び隣接する地区の病院において最近24時間のうちに小児4例が脳炎により死亡し、死亡例の合計は447例になったと述べた。2008年11月14日、脳炎の新規疑い例が14例入院し、122例が脳炎疑いで加療されており、2008年11月以降、脳炎症例が2,426例記録されている。(ただし、日本脳炎の確定診断はなされていない)
76	日本脳炎	第40回日本小児感染症学会総会・学術集会 F-13	2007年度感染症流行予測調査事業より、国内のヒト及びブタの日本脳炎抗体保有状況の報告。調査された32都道府県のうち、HI価1:10以上のブタ抗体保有率が50%を超えた地域は、高知県(7月下旬までに)、中国・四国・九州地方(8月下旬までに)、富山県、山梨県、静岡県(9月までに)に広がり16県に及んだ。
77	BSE	BMC Vet Res 2008; 4: 14	スクレイピー高感受性のプリオン蛋白質遺伝子型(VRQ/VRQ)保有の子羊に、VRQ/VRQを保有するスクレイピー感染雌羊の乳を与えたところ、子羊のリンパ組織から疾患関連プリオン蛋白質が検出された。また、スクレイピー感染雌羊の乳を与えた子羊を与えていない子羊と混合飼育したところ、与えていない子羊において疾患関連プリオン蛋白質が検出された。

No.	感染症(PT)	出典	概要
78	BSE	CFIA (2009-04-09)	カナダで15頭目のBSE牛の確認。当該牛は94ヶ月齢のホルスタイン乳牛。一緒に飼育された187頭のうち22頭は当該農場で生存しており屠殺処分された。122頭は既に死亡、屠殺を確認。24頭は死亡あるいは屠殺と推定され、5頭は輸出されている。14頭は記録不足により追跡不可能。
79	BSE	OIE (http://www.oie.int/eng/info/en_esbru.htm .)	1987年以前から2008年までに、英国から国際獣疫事務局(OIE)に報告されたBSEの報告である。
80	BSE	OIE (http://www.oie.int/eng/info/en_esbmonde.htm .)	1989年から2008年までに、世界各国(英国を除く)から国際獣疫事務局(OIE)に報告されたBSEの報告数である。
81	BSE	PLoS Pathogens 2008; 4: e1000156	米国アラバマのBSE確定ウシでウシプリオン蛋白遺伝子(Prnp)におけるE211Kと呼ばれる新規の遺伝子変異を同定した。この変異は遺伝性CJDのヒトにおいて見られるE200K病因性変異と同一であり、ウシPrnp遺伝子内で潜在的病原性変異を有するBSE確定ウシの最初の報告である。最近の疫学的試験によるとK211アレルは6062頭のウシで全く検出されず、E211K変異は極めて頻度が低い(2000例中1例未満)。
82	BSE	ProMED-mail20081119-3648	2008年11月17日、カナダにおいて新たにBSE感染牛が1例確認された。これはカナダにおける15例目である。British Columbiaの農場。
83	BSE	ProMED-mail20090220.0714	ニュージーランドのヒツジにおいて非定型スクレイピーを確認したとの報告。英国へ送られた研究用のヒツジの群の2匹とその2匹の子として生まれた雌ヒツジ。
84	クロイツフェルト・ヤコブ病	Emerg Infect Dis 2009; 15: 265-271	孤発性CJD(sCJD)と医学的処置との関連性を解明するために、日本における1999~2008年の期間にCJDサーベイランス委員会に登録された患者について分析した。その結果、sCJD発症前に施行された医学的処置によりプリオン病が感染した証拠はみつからなかった。
85	クロイツフェルト・ヤコブ病	Transfusion 2008; 48: Supplement 33A	米国で、古典的CJDを発症した供血者計35名に由来する血液成分の受血者430名の遡及調査の結果、孤発性CJDが輸血で伝播する証拠は無く、リスクはvCJDと比較して有意に低かった。
86	クロイツフェルト・ヤコブ病	Transfusion 2009; 49(5); 977-984	米国での調査研究の結果は、輸血によるCJD伝播については根拠に欠けるとしている。2004年以降、英国ではvCJDの輸血による伝播が報告され、変異型でないCJDもしくは古典的CJDの伝播のリスクについて懸念が高まってきた。1995年、米国赤十字社はCDCと共同で輸血によるCJD伝播の懸念を評価する詳細な疫学的データを得るために、供血後にCJDと診断された供血者(CJDドナー)の長期後ろ向き調査を開始し、CJDドナーの血液成分を投与された受血者を特定した。本結果からは、CJDの輸血による伝播を示す根拠は示されなかった。CJDドナーによる異常プリオンの輸血伝播のリスクは、vCJDドナーによる伝播のリスクと比べて顕著に低いことを後押しする結果となった。
87	クロイツフェルト・ヤコブ病	Transfusion Epub 2009 Jan 5	米国。輸血のCJD伝播リスクについて。後にCJD発症した供血者36例と受血者436例を調査。受血者のうち生存91例、死亡329例、不明16例。受血後にCJDを発症した例は特定されず。
88	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	BMC Vet Res 2008; 4: 14	スクレイピー高感受性のプリオン蛋白質遺伝子型(VRQ/VRQ)保有の子羊に、VRQ/VRQを保有するスクレイピー感染雌羊の乳を与えたところ、子羊のリンパ組織から疾患関連プリオン蛋白質が検出された。また、スクレイピー感染雌羊の乳を与えた子羊を与えていない子羊と混合飼育したところ、与えていない子羊において疾患関連プリオン蛋白質が検出された。
89	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Department of Health 2009/06/05	血友病患者の脾臓中に異常プリオン蛋白質が発見されたことを受け、CJD事故委員会の要請により「vCJD Risk Assessment Calculations for a Patient with Multiple Routes of Exposure」報告書がDepartment of Healthによって作成された。感染可能性のある種々の経路を設定し、それぞれの相対的な感染確率を検討した報告である。
90	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Emerging Infectious Diseases, Vol.14, No.12,1898-1901,2008	典型的BSEプリオンと非典型的プリオン(H型・L型)の脳への伝播をMet129ヒトPrPトランスジェニックマウスを用いて比較した。典型的BSEプリオンとは異なり、L型非典型的プリオンは伝播のバリアーを示さず蓄積された。H型では伝播・感染しなかった。L型プリオンに関連する人獣共通感染症のリスクはMet129PrP対立遺伝子対をもつヒトにおいては、典型的なBSEよりもリスクが高い可能性が示唆された。
91	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	FEBS Letters 2008; 582: 3161-3166	実験的にプリオンを感染させ、有病期にあるハムスターの約80%の尿中に異常プリオン(PrPSc)が検出された。対照群での偽陽性は観察されなかった。また尿中PrPSc値は血中の約10分の1と推定された。尿中PrPScは感染性を維持しており、尿はプリオン伝播の原因となることが示唆された。

No.	感染症(PT)	出典	概要
92	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Health Protection Agency 2009/05/22	2004年にHealth Protection Agencyは扁桃腺に蓄積されたvCJD関連プリオンタンパク質の大規模な調査により、無症候性vCJD保有率を検討するNational Anonymous Tissue Archive(NATA)を開始。既に63000例の扁桃腺組織の収集・解析を行っており、100000例まで収集する計画であるが、現在のところ陽性サンプルは一つもなかった。
93	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	FDA TSE advisory committee 2009/06/16	英国でvCJDに関連した凝固因子製剤を11年前に投与された血友病患者のvCJD感染の報告を受けて、米国におけるリスク管理戦略を再評価した。その結果は、米国で承認されている第Ⅷ因子製剤からのvCJD感染のリスクは極めて低いと考えられるが断言はできない、という従来と同様の評価である。
94	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	HPA/News 2009 年2月17日	HPA(英国)からの報告。1996年に血漿を提供し、その6か月後にvCJDを呈したドナーの血漿由来の第8因子製剤を使用した血友病患者について、検死によりvCJD感染が報告された。この患者はvCJDと関連のない疾患で死亡し、生前にvCJD又は他の神経学的症状を示していなかった。血漿分画製剤によるTSE伝播の可能性を示唆する初の報告である。
95	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	HPS Weekly Report 2009; 43: 78	1996年に血漿を提供し、その6か月後にvCJDを呈したドナーの血漿由来の第8因子製剤を使用した血友病患者について、この度、検死によりvCJD感染が報告された。血漿分画製剤によるTSE伝播の可能性を示唆する初の報告である。
96	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J. Hosp. Infect. 2009; 72: 65-70	新規のプリオン不活化法として、Bacillus lentusサブチリシン遺伝子を変異させて得られたアルカリプロテアーゼ:MC3の報告。MC3はプロテイナーゼKよりも高い分解能を示し、MC3消化の感染性マウス脳ホモジネート(iMBH)投与マウスの生存率は、非分解iMBH投与マウスと比較して極めて高かった。
97	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet Neurology 2009; 8: 57-66	BSEプリオンに対するヒトの感受性についてSNPを解析した。PRNP遺伝子座はプリオン病のいくつかのマーカーと全てのカテゴリーを通じてリスクに強く関連していた。疾病リスクへの主な寄与はPRNP多型コドン129であったが、別の近傍のSNPによってvCJDのリスク増大がもたらされた。
98	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nature 2009; 457: 1079	最近、非定型BSEが日本、カナダ、米国、複数のヨーロッパ諸国で発生している。非定型BSEの可能性のあるプリオン遺伝子の突然変異は豪州や新西蘭でも発生する可能性があり、反芻動物の厳密な飼料管理等、将来のアウトブレイクの防止に必要な規制を緩和すべきではない。
99	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	News-Medical.Net 2008 Dec 22	Amorfix Life Sciences社(カナダ)が開発した血漿中におけるvCJDプリオンタンパク質の検査法。脳ホモジネートを1/1,000,000まで希釈した検体を検出することに成功した。
100	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS Pathogens 2008; 4: e1000238	スクレイピー潜伏感染し、マレディレンチウイルス感染による乳房の異所性リンパ濾胞が認められた雌羊の乳管及び乳腺房から異常プリオン蛋白質が検出された。ただし、乳腺に病変のないスクレイピー潜伏感染雌羊の乳にもプリオン感染性が認められた。TSEが潜伏感染する反芻動物の乳が、直接又は飼料中の乳由来成分を通して動物間のTSE伝播に関与することが示された。
101	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail20090108.0076	英国CJDサーベイランスユニットの統計によると、2009年1月5日時点でvCJD死亡患者数総数には変化はなく167例のままであり、英国におけるvCJD流行は減少しつつあるとする見解に一致する。
102	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail20090202.0463	オランダにて2009年1月初旬に、4年間で3例目となるvCJDによる死亡例が報告された。この患者の感染経路は報告されていない。
103	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail20090307.0953	2009年1月、スペインSantander北部の都市にて、同国で5番目となるvCJDによる死亡例が確認された。
104	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail20090406.1337	スペインで2009年3月28日、vCJDの研究を専門としている病理医の男性がvCJDの疑いで死亡した。感染経路は不明であるが、業務中に感染したヒト組織の暴露を受けたかどうかについて調査している。
105	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Vox Sanguinis 2009; 96: 270	1995年から3回/週でIVIg治療を受けていた61歳女性は、1997年1月～1998年2月の期間に、後にvCJDを発症した供血者由来の製剤を使用していた。この女性の死亡後、剖検により脾臓、リンパ節、脳内のプリオン蛋白を検査したが、検出されなかった。
106	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	農林水産技術会議事務局研究成果 2009; 468: 77-81	ウシ及びマウスの消化管上皮細胞株を樹立し、濾胞随伴上皮に存在するM細胞のin vitro分化誘導系を開発するなど、経口摂取した異常プリオン蛋白の生体への初期侵入機構の解明を目的とした研究の報告。
107	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	農林水産技術会議事務局研究成果 2009; 468: 99-103	国内初発のBSEをマウスへ伝達・継代した結果、英国のBSEを伝達した結果と同様の結果が得られ、ウシでの解析結果と一致して、日本初発のBSEが英国のプリオン株と同じである可能性が示唆されたという報告。また、BSE、羊スクレイピーをマウスへ初代伝達した際の病変形成・発症について病理学的に検討を行った研究の報告。

No.	感染症(PT)	出典	概要
108	エボラ出血熱	IDWR 2009 第14週	2009年1月23日、フィリピンにおいてブタからの感染と考えられるエボラウイルス・レストン株抗体陽性者が確認され、1月30日、さらに4例の抗体陽性者が確認された。2月16日にさらに1例の抗体陽性者が確認された。2008年12月以降141例が抗体検査を受け、6例が陽性となった。6例全員が職業的にブタとの接触があり、感染源と考えられている。また6例全員が健康である。
109	エボラ出血熱	OIE (December 23, 2008)	2007～2008年フィリピンの養豚場でブタの死亡率が上昇し、政府が調査をした結果、2008年10月にブタでエボラレストンウイルス及びブタ繁殖・呼吸器障害症候群(PRRS)ウイルス強毒性株の感染が確認された。エボラレストンウイルスのブタへの感染を示す初の報告。
110	エボラ出血熱	ProMED-mail20090123.0293	フィリピンマニラの農場で2008年10月にブタで始めてエボラレストンウイルスが確認され、2009年1月には当該農場の労働者少なくとも1名で抗体陽性を示した。同ウイルスのブタからヒトへの感染を示す初の報告。
111	エボラ出血熱	ProMED-mail20090131.0437	フィリピンにおいて1月30日に、新たに4例がEbola-Restonウイルスに感染していたことが判明し、フィリピンにおけるERV感染者数は計5例となった。
112	エボラ出血熱	ProMED-mail20090203.0482	2009年1月23日、フィリピンにおいてブタからの感染と考えられるエボラウイルス・レストン株抗体陽性者が確認され、1月30日、さらに4例の抗体陽性者が確認されている。現在まで抗体陽性者の健康状態は良好であり、過去12ヶ月以内に主だった症状を呈していない。
113	エボラ出血熱	WHOEPH Disease Outbreak News(February 3, 2009)	フィリピンマニラの農場で2008年10月にブタで始めてエボラレストンウイルスが確認された後、2009年1月には当該農場の労働者少なくとも1名で抗体陽性を示し、今回さらに4例の抗体陽性例を認めた。
114	エボラ出血熱	Science 2009; 323: 451	フィリピン。2007～2008年に養豚場のブタの死亡率が上昇したことをうけ、政府の調査が実施され、ブタ繁殖・呼吸器障害症候群(PRRS)ウイルス強毒株およびEbola-Restonウイルスの感染が確認された。ブタからEbola-Restonウイルスの検出は初めてである。
115	エボラ出血熱	PLoS Pathogens 2008; 4: e1000212	2007年11月、出血熱の複数症例がウガンダ西部のブンディブギョ地方で報告され、新たに発見されたエボラウイルス種(ブンディブギョエボラウイルス)によるエボラ出血熱であることが確認された。
116	クロストリジウム感染	Emerg Infect Dis 2008; 14: 1039-45	動物からヒトへのClostridium difficileの異種間伝播を調査するため、ヒトの疾患に関連するToxinotype V株、動物及びヒトに由来するToxinotype V株の遺伝的関連性、in vitroのこれらの株の毒素産生性を調べた。その結果、ヒトとブタから分離されたToxinotype V株間で高い類似性が認められた。全ての分離株で39bp tcdC欠損が見られ、大部分がバイナリー・トキシンを産生した。
117	コレラ	CDC/Travelers' Health 2009年2月4日②	ジンバブエ保健当局からのコレラアウトブレイクの報告。2008年8月26日から2009年1月31日までに61,304例の感染疑い、3,181例の死亡。また、ボツワナ、モザンビーク、ケニヤ、マラウイ、ナミビア、ナイジェリア、ギニアビサウ及びトーゴといった周辺国からも発生が報告されている。
118	コレラ	J Med Microbiol 2009; 58: 234-238	2007年8～9月に、インド東部のオリッサでコレラが大流行した。流行地域で収集された糞便検体からEl Tor型の01コレラ菌が単離され、コレラ毒素Bサブユニットの遺伝子(ctxB)解析の結果、致死性の高いclassical型のコレラ菌のctxBと同一のアミノ酸配列になっていることが確認された。
119	コンゴ・クリミア出血熱	ProMED-mail20081027.3392	パキスタンのChest病院にクリミア・コンゴ出血熱症例3例が入院した。なお、最近2ヶ月間にクリミア・コンゴ出血熱症例数十例が入院し3例が死亡している。当該地区における過去2年間のクリミア・コンゴ出血熱感染症例は約100例である。
120	マールブルグ出血熱	CCDR weekly 2009.2.13 138304	米国CDCは2008年にコロラドの病院で治療を受けた1例がマールブルグ出血熱に感染していたことを2009年1月末に確認した。米国における初の症例。当該症例はウガンダを訪問中にオオコウモリが生息する洞窟を訪問し、感染したとされている。
121	サルモネラ	CDC/MMWR 2009; 58: 25-29	2007年6月、ミネソタ州においてSalmonella Montevideo(PFGE pattern 1)が初めて2例確認され、両者とも同じ孵化場のニワトリに暴露しており、その後さらに7例が確認されたため、全米で調査が行われ、65件が確認された。またS.Montevideo(PFGE pattern 2)についても、最初に2004年に確認された後、64件の分離が確認され、これは別の2箇所の孵化場からのニワトリ暴露に関連していた。
122	サルモネラ	Eurosurveillance 2008; 13: 19020	2008年5～6月、スイスでSalmonella Typhimurium患者報告数が増加し、72例の患者を対象に調査が行われた。FGEタイピングの結果から、複数のアウトブレイク株が同定された。そのうちの1つの株"株2"が43例を占めていたが、食品からの分離株で一致するものはなかった。11例から分離された"株1"及び6例から分離された"株3"は食肉製造業者の豚肉検体から一致する株が分離された。
123	サルモネラ	ProMED-mail20090209-0582	フィリピン・サマル州において2008年12月以降ブタでサルモネラ感染が流行し、84頭が死亡、約772頭が罹患した。その他25頭が感染疑いと殺された。2月9日現在、感染は制御されたと、同地域の農業省職員が述べた。

No.	感染症(PT)	出典	概要
124	大腸菌性胃腸炎	日本公衆衛生雑誌 第67回日本公衆衛生学会総会 13-019	埼玉県における2002年1月～2007年12月の腸管出血性大腸菌の患者・保菌者372例と非発症者477例を対象とした牛肉の喫食状況のリスクを調査したケースコントロール研究である。20～29歳ではレバ刺し、ハンバーグ、50～59歳ではレバ刺しに関して有意差があった。
125	細菌性胃腸炎	ProMED-mail20081229.4095	中国、Hubeiの学校で生徒81人が感染した腸チフスのアウトブレイクは制御されたと地元当局が2008年12月26日に発表。
126	チクングニヤウイルス感染	ProMED-mail20080923.3010	インドにおいてチクングニヤ症例が増加しており、2008年は現在までに70,740例(2007年:59,536例)に達している。
127	チクングニヤウイルス感染	ProMED-mail20081014.3259	インドネシアのKepulauan RiauのPangkelにおいて村民5,200例はチクングニヤに感染し、またRiau ProvinceのHealth Serviceは、2008年10月13日時点で約300例がチクングニヤの影響を受けたと述べている。
128	チクングニヤウイルス感染	ProMED-mail20081222.4028	マレーシア保健当局は、2008年マレーシア全域においてチクングニヤ疑い例が4,000例に上ったと12月17日に述べた。
129	チクングニヤウイルス感染	ProMED-mail20090112.0125	2008年末のチクングニヤのアウトブレイク以降、moneragala地方から報告された患者数は1300例。スリランカ保健当局によると、アウトブレイク発生直後の数日間に300～400例/日の患者が発生し、流行地域で約3000例の患者が確認された。
130	チクングニヤウイルス感染	ProMED-mail20090114.0150	モルディブLaamu Atollの島々においてチクングニヤやデング熱のアウトブレイクが2008年12月頃から発生し、1,000人以上が罹患している。
131	黄熱	ProMED-mail20090402.1217	サンパウロ奥地において2009年2月より黄熱が流行しており、その中で母子感染が確認された。初の黄熱の母子感染報告である。
132	黄熱	Trinidad&Tobago Express 2009 Jan 12	トリニダード・トバゴで多数のサル死亡が確認されている為、念のため黄熱ウイルスに対する予防接種を受けるよう呼びかけている。
133	黄熱	Trinidad&Tobago Ministry of Health web 2009 Jan 19	トリニダード・トバゴ保健省は、森林で死亡して発見された2頭のサルの剖検の結果、黄熱ウイルスの感染が認められたことを報告した。過去に1988年、1995年、1999年にサルの黄熱感染が確認されているが、ヒトでの黄熱ウイルス感染はなかった。
134	デング熱	International Herald Tribune 2009/01/11	ブラジル当局は、リオデジャネイロにおける2008年のデング熱による死亡例は106例で、2007年の27例比べて4倍であり、デング熱に罹患患者数についても2007年の2.5万人に比べ、2008年は12.7万人であると述べている。
135	デング熱	ProMED-mail20080909.2821	フィリピン保健当局は、2008年1月から8月2日までにデング熱による死亡195例、症例19,658例が記録されたと9月1日に述べた。
136	デング熱	ProMED-mail20080929.3078	インドにおいてデング熱の発生率は減少しており、2007年の症例数5,634例、死亡数69例に対し、2008年は現在までに症例数2,808例、死亡数38例である。
137	デング熱	ProMED-mail20081207.3840	パキスタン、ラホールにおいて最近24時間にさらに17例がデング熱の診断を受けたと保健当局が述べた。ラホールにおけるアウトブレイクは継続しており、11月26日付The Timesによるとこれまでに1,149例が報告され、Punjab州で報告された合計は1,219例である。
138	デング熱	ProMED-mail20090105.0041	インドネシア、東カリマンタンでは、2008年1～11月にデング熱で101例が死亡し、この死亡率(172/10万人・月)は国内平均(20/10万人・月)の8倍である。カンボジアでは、2008年のデング熱罹患患者数及び死亡者数は大幅に減少し、2008年の現在までの死亡例は65例(2007年:407例)、罹患患者数は9,300例(2007年:39,851例)である。
139	デング熱	ProMED-mail20090119.0242	台湾において2008年1月1日～2009年1月6日の間に報告されたデング熱症例は1,419例であり、そのうち488例は検査で陽性であった。
140	デング熱	ProMED-mail20090204.0487	シンガポール環境庁は、同国において2009年1月最初の3週間でデング熱感染症例509例が登録され、2008年同時期の症例数341例を超えていると報告。
141	デング熱	ProMED-mail20090210.0603	マレーシアにおいて2009年の最初の5週間で国内のデング熱症例が倍増した。Selangorでは未だに症例数は多く、2009年2月6日時点で約6,623症例及び死亡18例が登録されている。
142	デング熱	ProMED-mail20090216.0650	ベトナムでは2009年の現在までのデング熱症例は約3,000例と、前年同時期と比較して20.5%増加している。一方、タイでは2009年の現在までのデング熱症例は1,675例(死亡2例)であり、前年同時期(1,553例、死亡2例)に比べ若干増加している。

No.	感染症(PT)	出典	概要
143	デング熱	ProMED-mail20090608.2121	2009年の1月から5月22日までの、ブラジルバイーア州における古典的デング熱症例数は82402例に達し、2008年同時期(28432例)と比べて220%増加している。確定死亡例は55例であった。
144	デング熱	ProMED-mail20090622.2286	ブラジルのエスピリト・サント州保健当局は、2009年は6月1日までにデング熱症例数が43536例を記録したと発表した。1日当たり約288例が報告されていることになる。
145	デング熱	Transfusion 2008; 48: 1342-1347	高力価の培養デングウイルス セロタイプ2をアルブミンおよび免疫グロブリンの各種製造工程(低温エタノール分画、陽イオン交換クロマトグラフィー、低温殺菌、S/D処理およびウイルスろ過)前の検体に加え、各工程での同ウイルスのクリアランスをVero E6細胞培養におけるTCID50アッセイおよびRT-PCRで測定した。その結果、全ての工程が不活化・除去に有効であることが示された。
146	アメリカ・トリパノソーマ症	AABB Annual Meeting and TXPO 2008-3	米国で2007年から開始された供血者に対するT. cruziスクリーニング検査の結果、2007年1月29日～2008年1月28日の陽性率は1/30,000であったが、受血者には明白な感染症例はなかった。最も陽性率が高い地域はフロリダ南部であった。
147	アメリカ・トリパノソーマ症	CBER (http://www.fda.gov/cber/gdlns/chagas.htm)	CBERから、輸血用全血、血液成分製剤、ヒト細胞・組織及びヒト細胞・組織由来製剤のTrypanosoma cruziが伝播する危険性を低減するための血清学的検査実施についてのガイダンス案を公表。
148	アメリカ・トリパノソーマ症	Emerg Infect Dis 2009; 15:653-655	ブラジルで2006年1～11月に発生したアメリカ・トリパノソーマ症のアウトブレイク(178症例)について、調査の結果、アサイー果実を潰す際に、原虫を媒介するサシガメの排泄物が混入した可能性が考えられた。
149	アメリカ・トリパノソーマ症	FDA Guidance for Industry(draft) "Use of Serological Tests to Reduce the Risk of Transmission of Trypanosoma	Trypanosoma cruzi抗体検出用のELISA検査システムがCBERにより許可されたことをうけ、米国において、全血、血液成分及びHCT/PSにおけるトリパノソーマ症伝播のリスク低減のためのドナースクリーニングについて、FDAよりドラフトガイダンスが公表された。最終版発表後1年以内にこのガイダンスに適合することが推奨されることとなる。
150	アメリカ・トリパノソーマ症	ProMED-mail20090406.1328	ベネズエラでグアヴァジュースの摂取によるアメリカ・トリパノソーマ症のアウトブレイクが発生し、同学校に通う児童47名と教師3名が感染。児童3名が死亡。
151	ニパウイルス	Emerg Infect Dis 2008; 14: 1974-1976	中国で2004～2007年に自然生息のコウモリを捕獲し、血清、咽頭、糞便におけるニパウイルス遺伝子及び糖タンパクの検出を行った。その結果、692標本中33標本(23匹中9匹)で陽性を示した。特に、雲南省からのホオヒゲコウモリの抗体が突出していた。
152	バベシア症	2009 Feb 23; New York City, Department of Health	2008年9月以降の6ヶ月間、ニューヨーク市において輸血関連バベシア症の報告急増。市衛生局は医療従事者に対し、3ヶ月以内に輸血又は臓器移植の既往歴があり、発熱/溶血性貧血を呈する患者の鑑別診断にバベシア症を考慮するよう勧告した。
153	バベシア症	AABB Annual Meeting and TXPO 2008-2	輸血を介したバベシア症死亡例の報告。1998年の1例以降しばらく無かったが、2006年1～10月にはFDAに5例が報告された。生物学的製品逸脱報告サマリーでは、過去10年間にバベシア症関連報告が68件あり、近年この報告が増加傾向にあることは、バベシア症伝播に係る輸血関連リスクが増加していることを示している。
154	バベシア症	Clin Infect Dis 2009; 48: 25-30	FDAはBPDR(生物学的製剤逸脱報告システム)により、2005年に2例、2006年に3例、2007年に3例の輸血によるバベシア症感染報告を受けていた。受血者は輸血後2.5～7週で症状が進行し、2ヶ月以内に死亡した。
155	ロタウイルス	J Med Virol 2008; 80: 1666-1674	1982年12月～1986年3月のブラジル・ベレン郊外でC群ロタウイルス(RVC)の流行に関する調査が実施された。生後～3歳まで追跡された小児30例の糞便検体から17検体でブタRVCが検出された。また、VP6遺伝子の配列分析から14株は完全に相同であり、同一のブタRVC株がベレンで流行していることが示唆された。
156	ブドウ球菌感染	Ugeskr Laeger 2008; 170: 3436-3437	デンマークにおいて職業上のブタ接触者2例で、MRSA感染が確認された。ST398及びt034という特徴も併せ、ブタが感染源であると判断された。
157	ブルセラ症	CDC/MMWR 2009; 58: 618-621	2008年5月及び7月に米国South Carolina及びPennsylvaniaからブタの狩猟に関連するブルセラ症症例が2例報告され、その後の調査で2例はB. Suisへの感染によるブルセラ症であること、また、うち1例の兄弟もブルセラ症の可能性があるとされた。上記2例は暴露後4～6か月症状がなかった。
158	ブルセラ症	ProMED-mail20090701.2380	ロシアのZameletenovka州、LyubinskiyとSherbakulskiyの2地方で、ヒツジ、ウシ、ブタにおけるブルセラ症が発見され、それらの動物と接触した可能性のある300例が検査をうけ、39例がブルセラ症と診断された。

No.	感染症(PT)	出典	概要
159	ペスト	ProMED-mail20081001.3094	中国林芝地区の朗県において肺ペストに感染した2例が死亡した。症例は35歳男性と38歳の妻。
160	マラリア	AABB Annual Meeting and TXPO 2008-4	オーストラリア赤十字は2005年7月から、マラリア感染のリスクのある供血者に対し、従来の医療歴・渡航歴の収集から、リスクへの暴露を特定した時から最低4ヶ月間のマラリア抗体のスクリーニングを実施する代替戦略を導入した結果、既存の供血者に由来する輸血可能な製剤の製造効率は著しく向上し、輸血伝播マラリア症例の報告もなかった。
161	マラリア	Am J Trop Med Hyg 2009; 80: 215-217	1997年より韓国軍はヒドロキシクロロキン及びブリンマキンをを用いた予防的化学療法を実施し、マラリア患者の急増を防ぐことができたが、調査登録患者484名中2名にクロロキン耐性 <i>Plasmodium vivax</i> を確認した。
162	マラリア	CDC/MMWR 2009; 58: 229-2	近年、5番目のマラリア原虫として、サルマラリアである <i>Plasmodium knowlesi</i> のヒトへの感染例がマレーシア及びその周辺において多数確認されており、人畜共通感染症の病原体として新興している可能性が示されている。
163	マラリア	ProMED-mail20081111.3553	インドのベンガル州保健当局によると、2008年8月29日までの報告では、25,109例がベクター媒介疾患に罹患し、そのうち1,476例が熱帯熱マラリアであったが、その後発表された正確なデータでは、41,223例がベクター媒介疾患に罹患し、そのうち4,781例が熱帯熱マラリアであった。
164	マラリア	ProMED-mail20081114.3591	シンガポール、フィリピン、マレーシア、タイでの <i>Plasmodium knowlesi</i> 原虫感染によるヒトマラリア感染に関する論文が紹介されている。
165	マラリア	ProMED-mail20090114.0156	中国において、2008年5月から2009年1月10日の間にアンゴラから帰国した労働者において14例のマラリア症例が確認された。
166	リケッチア症	CDC/MMWR 2008; 57: 1145-1148	米国ミネソタ州の68歳男性が、2007年10月12～21日に手術後の輸血を受け、敗血症および多臓器不全をきたした後、10月31日に発熱を伴う急性血小板減少症を発現し、11月3～5日の血液検体からPCR及び抗体検査でアナプラズマ症感染が確認された。血液ドナーの1人に <i>A. phagocytophilum</i> 陽性がPCR及びIFA検査で確認され、血液ドナーに感染源が確認された初の事例となった。
167	リケッチア症	JAMA 2008; 300: 2263-2270	中国安徽省でヒト顆粒球性アナプラズマ症(HGA)と症状が一致する患者は、2006年10月30日に発症し、11月5日に死亡した。確定診断はされなかったが、発症する12日前にダニに刺されていた。11月9-11日に、この患者の血液および呼吸器分泌物との直接接触によると疑われる症例9例が報告され、HGAと確定診断された。中国におけるHGA症例の初めての報告である。
168	リケッチア症	ProMED-mail20080728.2306	オランダ・ブラバント州の公衆衛生局が行った調査でQ熱の症例報告数が急激に増加し、2008年7月21日付けで491症例が報告されている。感染症管理センター長によると、実際の感染者数は報告された症例数の10倍であると思われる。2007年まではQ熱はオランダではほとんど存在しなかった。
169	リケッチア症	第83回日本感染症学会総会 2009年4月23～24日	平成20年8月、仙台市においてリケッチア症を疑う患者が発生した。生検材料を用いたPCRにより陽性であったが、シーケンス解析により、ロシアや中国の患者から報告されている <i>R. heilmongiangensis</i> に一致した。国内に、日本紅斑熱とは異なる紅斑熱ケッチア症が存在することが示された。
170	リケッチア症	日本細菌学会第82回総会 P2-182	<i>Anaplasma phagocytophilum</i> によるアナプラズマ症の本邦初の症例。2002～2003年の高知県で日本紅斑熱が疑われた18例の血餅から、2例で、 <i>A. phagocytophilum</i> に特異的な p44/msp2 外膜蛋白遺伝子群のPCR産物が検出された。
171	レプトスピラ症	Jpn J Infect Dis 2008; 61: 465-468	ヒトでのレプトスピラ感染が発生した2006年夏の宮崎県北部における動物の保菌状況を調査した。患者の血清は、特に各々の患者が発生した地域周辺で捕獲された野ネズミから分離されるレプトスピラ菌株と一致し、野ネズミが人間のレプトスピラ感染症の原因であることを示唆した。また、猟犬からも抗レプトスピラ抗体が検出された。ハンターや食肉加工業の労働者での潜在的危険を示している。
172	レプトスピラ症	ProMED-mail20080922.2984	スリランカにて2008年8月末までに報告されたレプトスピラ症は3,825例であり、死亡例は117例であった。9月20日までに症例数は4,500例、死亡例は150例に増加した。
173	レンサ球菌感染	CDC/MMWR 2009; 58: 109-112	米国におけるActive Bacterial Core Surveillanceの2006年のデータより、新生児のB群連鎖球菌疾患に関する分析結果。2000～2006年の間に早発性疾患は1199例、遅発性疾患は1005例に発症し、2006年では、早発性疾患179例、遅発性疾患137例の発症が報告された。
174	レンサ球菌感染	Emerg Med J 2008; 25: 607-608	イギリスで35歳の精肉店勤務の男性がブタ連鎖球菌性髄膜炎を発症した。業務上負った手の切り傷からの感染と思われる。
175	レンサ球菌感染	Epidemiol Infect 2008; 136: 1691-1697	2003年1月1日～2005年7月31日の期間に香港の公立病院に入院し、ブタ連鎖球菌感染症と診断された患者は21例であり、半数が65歳以上、大半が夏に発症であった。5例がブタや豚肉への職業的接触があり、4例は発症前に生の豚肉を調理していた。

No.	感染症(PT)	出典	概要
176	レンサ球菌感染	J Infect 2008; 57: 158-161	オランダで3.5年間の観察コホート研究において696例の細菌性髄膜炎患者が同定され、うち4例がブタ連鎖球菌性髄膜炎であった。全4例でブタへの暴露が関係していた。3例が重度の難聴の後遺症を呈した。
177	レンサ球菌感染	J Infect 2008; 57: 392-396	ブタ連鎖球菌感染症の死亡のリスク因子を特定することを目的とした後ろ向きコホート研究が、2005～2007年のタイ北部のターシャリーケア病院のブタ連鎖球菌感染症患者を対象に実施された。Cox's回帰分析により、敗血症性ショック、ALT上昇が死亡のリスク因子であることが明らかになった。
178	レンサ球菌感染	ProMEDmail20081231-4135	香港のTai Po Hospitalの男性精神科病棟で患者15例がStreptococcus pyogenes (A群β溶血性連鎖球菌)検査に陽性であった。
179	レンサ球菌感染	Transfusion 2008; 48: 2177-2183	米国。ルーチンの細菌培養スクリーニングを実施したプール血小板の輸血を受けた患者が、C群連鎖球菌感染症により死亡した。遡及調査の結果、無症候性の供血者が原因と考えられた。現在の検査法の限界を示す報告。
180	レンサ球菌感染	日本化学療法学会第57回総会201	50代後半の男性が右母指のウオノメをカッターで自己切除したところ黒変し、その範囲は急速に拡大。右下肢の腫脹が起り入院。右母指には悪臭と壊疽を伴う重度の蜂巣炎、X線所見で右大腿部にガス像を認めた。Streptococcus dysgalactiae subsp. dysgalactiaeによる初めてのヒト感染例と考えられる。
181	レンサ球菌感染	日本感染症学会総会学術集会 第83回 O-173	Streptococcus Dysgalactiae subsp. Dysgalactiaeに起因した、劇症型A群連鎖球菌感染症(STSS)を伴う壊死性筋膜炎症例の報告。
182	レンサ球菌感染	病原微生物検出情報2008; 29: 257-258	日本において精肉加工業の68歳男性がブタ連鎖球菌性髄膜炎を発症した。敗血症、急性腎不全、DICを合併した。具体的な感染経路は確認されていない。
183	感染	BMJ 2008; 337: a2622	欧州における2006年の感染症の発生報告はクラミジアが最も多く、以下、ランブル鞭毛虫症、カンピロバクター症、サルモネラ症、結核、流行性耳下腺炎、淋病、C型肝炎、侵襲性肺炎球菌疾患、HIVの順であった。
184	感染	http://www.fda.gov/cber/blood/fata107.pdf	2007年度のCBERIに報告された供血後及び輸血後の死亡例概要。受血者76件、供血者17件の死亡報告。受血者死亡の内訳は、52件が輸血関連もの、11件が輸血関連性否定できないもの、13件が輸血と関連しないものであった。
185	感染	http://www.fda.gov/cber/blood/fata108.pdf	2005～2008年度のCBERIに報告された供血後及び輸血後の死亡例概要。2008年度は、受血者72件、供血者10件の死亡報告。受血者死亡の内訳は、46件が輸血関連もの、8件が輸血関連性否定できないもの、18件が輸血と関連しないもの。微生物感染はバベシア症5件、Staphylococcus aureus、Staphylococcus epidermidisがそれぞれ1件。05～08年度の微生物感染28件中、10件をバベシア症が占めている。
186	感染	ProMED 2009 Jan 29	ドイツで2008年前半より”Blood sweating disease”で仔牛が死亡している。原因は不明である。この疾患はドイツ各地で発生しており、ババリアでは40頭の症例が確認されている。ミュンヘン大学のclinic for ruminantsも同様の症例を報告している。主に、生後2～3週間の仔牛が感染している。
187	ウイルス感染	CDC/Travelers' Health 2009年2月4日	日本国内の前立腺がん患者30例の血清のうち2例からGagに対する特異的抗体反応が認められ、そのうち1例からはXMRV (Xenotropic MuLV-related virus) 核酸を検出した。また、献血者120例中5例でもGagに対する特異的抗体反応が認められた。日本国内の前立腺がん患者集団中にもXMRV感染が存在することが示唆された。
188	ウイルス感染	Eurosurveillance 2008; 13: 1-2	アフリカ南部における初のアレナウイルス感染症例。ザンビアで発症した患者が南アフリカ・ヨハネスブルクに移送されたが発症10日後に死亡。移送した救急隊員1名及びヨハネスブルクで看護を担当した看護婦1名も約1週間の潜伏期間の後発症し死亡。
189	ウイルス感染	PLoS Pathogens 2009; 4: e1000455	2008年に南アで発生した致死性出血熱のアウトブレイクにおいて、30年ぶりに新規の旧世界アレナウイルスが分離された。発見された地名 (Lusaka, Johannesburg) より、Lujo virusと命名された。
190	ウイルス感染	IASR 2008; 29: 310-312	2007年11月22日、急性呼吸器症状を呈した東南アジアからの帰国者(38歳男性)が高病原性鳥インフルエンザの要観察例と判断され、インフルエンザH5N1の検査が依頼された。検査の結果、インフルエンザH5N1の感染は否定され、オルソレオウイルスが分離された。これまで本ウイルスに日本人が感染した報告はなく、国内への侵入も初めてと考えられた。
191	ウイルス感染	N Engl J Med 2009; 360: 2099-2107	New Yorkの62歳の男性は、シカダニウイルスに感染したシカダニの咬傷後に髄膜脳炎で死亡した。これまでシカダニウイルスのヒト感染は報告されていないが、この症例はシカダニウイルスが致命的脳炎の原因でありえることを示している。
192	ウイルス感染	PNAS 2008; 105: 14124-14129	新規ヒトカルジオウイルス7株についての報告。

No.	感染症(PT)	出典	概要
193	ウイルス感染	ProMED-mail20080911.2845	げっ歯類を宿主とし、これまでヒトには感染しないと考えられていたcardiovirusがヒト糞便検体から検出されている。ヒト感染例が確認された3文献をまとめている。
194	ウイルス感染	ProMED-mail20090129.040	ユンガンウイルスは、マウスにおいて胎児死亡や奇形を起こすことが知られているが、疫学的データから、ヒトにおいても子宮内胎児死亡に関連していることが示唆された。
195	ウイルス感染	ProMED-mail20090210.0598	中国における豚繁殖・呼吸障害症候群 (PRRS) の発生。中国北部Shanxi省Hongdong県でブタ1056頭死亡。同県周辺の屠殺場7箇所でも30頭の罹患ブタが確認された。
196	ウイルス感染	ProMED-mail20090218.0669	ナイジェリアでは、2008年1月から12月にかけて、229人のラッサ熱感染疑い患者が報告され、30人が死亡している。また、2008年12月～2009年1月に、感染疑い患者及び感染確定患者はそれぞれ60%及び80%増加している。
197	ウイルス感染	Vet Microbiol 2009; 133: 184-189	ブタ及びヒツジの糞便検体のノロウイルススクリーニングをmultiplex real-timeRT-PCRで実施した。ブタでは2/23検体で遺伝子群II、ヒツジでは8/33検体で遺伝子群IIIが陽性であった。臨床的異常は認められていない。ゲノム配列分析から、ヒツジで検出された株は新たなGIII遺伝子群であることが示唆された。
198	ウイルス感染	日本輸血細胞治療学会誌 2009; 55: Y-1-3	1985年にBSE、1997年に高病原性トリインフルエンザ(H5N1)、1999年にウエストナイルウイルス、2003年にはSARSが発生。2006年にはチクングニヤウイルスの発生。2007年には、未知の新ウイルス(新規のアレナウイルス)等の存在が明らかとなり、血液を介した感染リスクが存在するか検討されている。
199	原虫感染	日本寄生虫学会第64回西日本支部大会 32	昨年、新種のアメーバが分離され、Entamoeba nuttalliとして報告された。本原虫は動物実験で病原性を示し、Entamoeba spp.にE. histolytica以外の病原種の存在を示唆する知見である。インドネシアのカニクイザルの感染状況を調査した結果、糞便52検体中1検体で検出された。
200	狂犬病	ProMED-mail20090114.0157	Shandong省Yantai市で狂犬病患者が増加しているとの報告。
201	狂犬病	ProMED-mail20090215.0644	Charlotte酪農場においてウシ2頭が2009年2月9日及び10日に狂犬病によって死亡した。農場のイヌに殺されたアライグマから感染した可能性がある。また、East Valley Middle School近くのネコ1匹において狂犬病症例を確認した。
202	狂犬病	ProMED-mail20090220.0724	米国、Linville付近の農場のウシ3頭が狂犬病に感染していた。また、この農場で発見されたアライグマも狂犬病に感染していた。
203	狂犬病	ProMED-mail20090410.1383	米国バーモント州の農場でウシ5頭が狂犬病検査陽性であったことを受けて、当局はウシのワクチン接種を行うよう農場主に呼びかけている。
204	狂犬病	ProMED-mail20090418.1470	米国ノースカロライナ州の農場で、2009年4月6～10日の週に仔牛1頭が狂犬病に感染し死亡した。Rowan Countyにおいて2009年5例目の症例である。
205	結核	Northland Northern Advocate 2009/07/09	ニュージーランドにおいて、ウシ結核菌に感染したウシ(1頭)が発見され、感染拡大防止のため、感染牛は屠殺処分され、当該牧場の家畜に移動制限が行われた。
206	結核	ProMED-mail20081205.382	米国インディアナ州南東部の牛の群においてウシ結核が1例確認され調査中である。
207	結核	ProMED-mail20081207.0101	米国ミネソタ州のBeltrami Countyにおいて、ウシ結核が3頭で確認された。
208	結核	ProMED-mail20081208.3856	米国ミネソタ州ノースダコタは1976年以降ウシ結核フリーであったが、今般、ウシ結核の発生を受けて調査が行われている。
209	結核	ProMED-mail20090114.0151	中国における結核菌の薬剤耐性率は世界平均の約2倍であった。多くの患者が副作用やコンプライアンスの悪さによって治療を中断していることが問題である。
210	結核	ProMED-mail20090215.0644	米国インディアナ州Board of Animal Health(BOAH)は、州南部のウシの群におけるウシ結核症例1例について調査を行っている。
211	結核	ProMED-mail20090220.0724	米国ミネソタ州Board of Animal Health(BOAH)は、2008年12月3日にBeltrami Countyのウシの群の3頭がウシ結核陽性であったと発表した。
212	結核	ProMED-mail20090423.1536	米国テキサス州西部において乳牛がウシ結核に感染していることが明らかになった。

No.	感染症(PT)	出典	概要
213	口蹄疫	OIE(November 13, 2008)	中国における口蹄疫:発生日 2008年11月6日、最初の確定日 2008年11月8日、報告日 2008年11月12日、原因 口蹄疫ウイルス アジア1型。2008年11月6日にGANSU省Tianshui地区Ganguで口蹄疫のアウトブレイクが発生した。疑い例はウシ238頭、ヒツジ3頭およびブタ56頭、確定例はウシ102頭、死亡例0頭であった。疑い例は全て処分された。
214	細菌感染	CDC/MMWR 2009; 58: 362-365	Chlamydia trachomatis感染症は米国で最も発症頻度の高いSTDであり、年間280万人が罹患している。2007年には110万人のクラミジア感染症例がCDCに報告され、その半数以上は15~25歳の女性であった。
215	細菌感染	JAMA 2008; 300: 2263-2270	中国安徽省でヒト顆粒球性アナプラズマ症(HGA)と症状が一致する患者は、2006年10月30日に発症し、11月5日に死亡した。確定診断はされなかったが、発症する12日前にダニに刺されていた。11月9-11日に、この患者の血液および呼吸器分泌物との直接接触によると疑われる症例9例が報告され、HGAと確定診断された。中国におけるHGA症例の初めての報告である。
216	細菌感染	ProMED-mail20081229-4095	中国、Hubeiの学校で生徒81人が感染した腸チフスのアウトブレイクは制御されたと地元当局が2008年12月26日に発表。
217	細菌感染	Transfusion 2008; 48: 2348-2355	全血血小板の細菌汚染リスクを低減させるためには、初流血除去及び細菌培養によるスクリーニングが有効な方法であることを示す報告。
218	細菌感染	日本感染症学会西日本地方会学術集会 第78回 2008年12月5-6日 063	本邦で初のEnterococcus hirae感染例の臨床報告。化膿性胆管炎疑い患者の血液培養より分離。
219	細菌感染	日本感染症学会東日本地方会学術集会 第57回 2008年10月23-24日 058	Lactococcus garvieaeが起炎菌と考えられる腰椎椎体炎の1例。当該菌による骨髄炎は2000年に1例報告されて以来、世界第2例目である。
220	細菌感染	日本細菌学会第82回総会 P2-182	Anaplasma phagocytophilumによるアナプラズマ症の本邦初の症例。2002~2003年の高知県で日本紅斑熱が疑われた18例の血餅から、2例で、A. phagocytophilumに特異的なp44/msp2外膜蛋白遺伝子群のPCR産物が検出された。
221	コクシジオイデス症	CDC/MMWR 2009; 58: 105-109	カリフォルニア州におけるコクシジオイデス症の報告数及び入院数は2000~2006年の間毎年増加しており、1995~2000年の3倍以上(8/10万人)となった。米国のコクシジオイデス症全体の約60%を占めるアリゾナ州でも同様に、2006年には5,535例(91/10万人)と増加している。米国全体でも、1996年の1,697例から2006年には8,917例(6.97/10万人)に増加しており、流行地への訪問や居住歴のあるインフルエンザ様症状や肺炎、播種性感染症の患者では本症が鑑別されるべきである。
222	神経系障害	Feedstuff Breaking News (2009/3/3)	2007年に、米国の豚肉製造工場で脳摘出のために圧縮空気を使用していたミネソタ州、インディアナ州、ネブラスカ州の3つの工場の作業員において慢性的な炎症性の脱髄性多発性神経障害が発生している。すでに自主的にこの作業は中止されている。
223	ハンセン病、らい腫型	Eurek Alert November 24, 2008	散在性らい腫性ハンセン病で死亡した患者の検体の遺伝子分析より、ハンセン病の唯一の病原菌と考えられていたMycobacterium lepraeに加えて、新書の病原菌、M. lepromatosisを確認した。
224	髄膜炎菌感染	ProMED-mail20090211.0621	髄膜炎菌性髄膜炎が流行・拡大しているバングラディッシュに国境を接しているインド北東部において2,000例を超える髄膜炎菌性髄膜炎が発生し、165例以上が死亡している。
225	旋毛虫症	Vet Parasitol 2008; Epub: 4590	1990年~2006年のブルガリアにおける旋毛虫症の疫学調査結果である。145件のアウトブレイクと238例の散発症例が確認され、総計7544例が旋毛虫に汚染された肉を摂食し、4108例が感染し、2237例が発症したと判断された。そのうち入院は1014例、死亡は2例であり年間発症率は人口10万人あたり0.27~7.40であった。アウトブレイクの主な原因はイノシシ肉(57件)と豚肉(67件)であった。
226	炭疽	ProMED-mail20090110.0100	ケニアのManyata地区のNjukiri村で炭疽感染牛の処分を行っていた28歳の男性が炭疽菌感染症状を呈し2009年1月6日にEmbu Provincial病院へ向かう途中で死亡した。
227	炭疽	ProMED-mail20090116.0187	ジンバブエにて2008年11月以降に炭疽により死亡したウシやヤギの肉を食したことにより200人が炭疽に感染し8人が死亡した。

No.	感染症(PT)	出典	概要
228	炭疽	ProMED-mail20090510.1747	2007年後半におよそ70年ぶりに オーストラリアのHunter Valley においてウシの炭疽のアウトブレイクが発生した。オーストラリアにおいて、洪水により長期間埋もれていた炭疽菌芽胞が姿を現し、農村部で炭疽が再興していると、New South Walesの研究者らが報告した。
229	炭疽	ProMED-mail20090511.1763	南インドのAndhra Pradesh州Visakhapatnamにおいて、過去2カ月間に17例が炭疽により死亡した。
230	中毒	BBC News 2009 Feb 23	中国でクレンブテロールに汚染された豚肉の摂取により、70人以上が発病した。豚肉は広東省・広州の市場から流通したもので湖南省の農家で飼育されたもの。
231	中毒	ProMED 2009 Jan 17	メキシコ、Zapotlanejo市でクレンブテロールによる中毒と確定診断された患者9例が報告された。発生源の精肉店は直ちに閉鎖され、現在、ウシの肝臓の売買が禁止されている。2008年にも21人のクレンブテロール中毒が発生している。